

# しんぎょう

## 浄土真宗本願寺派（西本願寺） 真楽寺報

令和五年三月

無慚無愧のこの身にて

まことのこころはなけれども  
弥陀の回向の御名なれば  
功德は十方にみちたまふ

（親鸞聖人『悲歎述懐讚』）

「あなた、人生何回目？」

『ブラッシュアップライフ』  
というテレビドラマの中での台詞です。

この人生は一度きりです。しかし、何か取り返しのきかない失敗をした時、「もう一度やり直せたならばもっと上手にやれるのに」等と都合のいいことを思うことがあります。ただ、仮にそれが出来たとしても同じような失敗を繰り返すのが落ちでしょうが。

ドラマは、こんな筈ではなかったのと思うような事故で命を落とした人が、同じ人格の人生を繰り返すという内容です。死後の世界の入り口で、そこに

を一杯抱えているような気がします。

私たちは、何をなしているか、

何を抱えているかによって様々な姿になっているようです。『涅槃経』に「無慚愧は名づけて人とせず、名づけて畜生とす。」

という言葉があります。「慚は自ら罪を作らず、愧は他を教えでなさしめず。慚は自ら羞恥す、愧は発露して人に向かう。慚は人に恥ず、愧は天に恥ず。」という文に続く言葉です。失敗のない人生はありませんが、そこに自ら学び育ち合うことを知らず、恥ずべきことを誤魔化し隠し、人に対しても仏・菩薩に対しても恥じ入ることがない、そんな姿を畜生というのだと経典には説かれています。

さて、親鸞聖人は、御和讃にご自身を「無慚無愧の身」と述べられます。

成功であれ失敗であれ人生に様々な経験を重ねていくと、生き方がブラッシュアップされ（磨き上げられ）ていきます。世間を生きるためには、身を慎み、言葉を慎んで、他人とは争わないようにします。欲張りの姿は

見せないように、穏やかな顔をして優しい言葉をかけてやり、仏様のような生き方もしてみせることも出来るようになります。

しかし、それが自身を賢く偉い存在のように見誤らせることがあります。そうなるとその賢さは親を罵ったり師を謗ったり、家庭の中では威厳のつもりがただの横暴な親父になっていたり、たねになります。そして、例えば物事がうまく運ばない時は「チクショー」といいながら他人を責めるなど、無慚愧の畜生の姿を露出してしまします。表面を磨き上げたつもりが内側の錆が覗くのです。

この無慚無愧の本性を見抜かれた阿弥陀如来が私に真実の功德を施されます。必ず浄土に生まれさせ、真実のさとりを開かせるというはたらきが私の声にでてきます。「南無阿弥陀仏」は仏力がいのちに響いた姿です。ここに、磨き上げなくともこのままの人生を喜べるブラッシュアップライフ（如来様に整えられた人生）が果てなく広がっています。

親鸞聖人御誕生八五〇年  
立教開宗八〇〇年

慶讃法要についておしらせ

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は  
一一七三年五月二二日(承安  
三年四月一日)、京都の日野  
に御誕生になりました。また、  
一二二四年聖人五十二才の時  
には浄土真宗の御法義が具に  
示された『顕浄土真実教行証  
文類』(『教行信証』)を著さ  
れました。このことからこの  
年が立教開宗、則ち宗派とし  
ての浄土真宗の始まりと考え  
られてきました。

今年、御本山(京都・西本願  
寺)では、三月二十九日から  
五月二十一日までの間で三十  
日の宗祖御誕生八五〇年、立  
教開宗八〇〇年慶讃法要が厳  
修されます。そして全国各地  
でこの法要が勤められます。  
私たちの真楽寺でも、五月  
七日に本法要をお勤め致しま  
す。毎年親鸞聖人降誕会をお  
勤めしていますが、今年は諫  
早組二十一ヶ寺合同の慶讃法  
要として盛大に執り行うこと

になりました。期日等は左記  
の通りです。

お勤めに続いて御法話を聴  
聞し、その後はソプラノ歌手、  
内夏美さんのミニコンサート  
で仏教讃歌などを歌って頂き  
ます。

現在、役員さん方と御加勢  
の方々で実行委員会を組織し  
諸準備を行っているところで  
す。四月に入りましたら、改  
めまして法要の御案内を致し  
ますが、どうぞお誘い合わせ  
てのご参詣をお待ちしており  
ます。

記

期日 五月七日(日)  
時間 午前九時二十分  
午後零時三十分  
講師 兵庫県宍粟市  
西願寺住職 佐々木大観師  
コンサート  
ソプラノ歌手  
内 夏美さん  
ピアノ 本川珠央さん

◎勤行練習のお知らせ

この度の慶讃法要では、お正  
信偈のお勤めを、『御本典作法』  
という新しい節でお勤めするこ  
とになりました。  
簡単な節の繰り返しですが、

◎春季彼岸会法要

春の日射しが心地よくなり、も  
うすぐお彼岸です。  
日射しに誘われて桜のつぼみも  
目立つようになりました。如來さ  
まの光の中に私たちの信心の華も  
開きます。おさとの彼岸のはた  
らきを、お聴聞致しましょう。

左記の通り、お彼岸会法要をお  
勤め致します。お誘い合わせての  
御参詣、お待ち致しております。

期日 三月十九日(日)  
三月二十一日(火)  
時間 午前九時半より勤行

※十六日の御命日法要・門徒会の後  
一時間ほど本堂の清掃をします。  
ご都合つかれる方は御加勢をお願  
いします。

◎四月の法要予定

慣れないと戸惑われるかも知れ  
ませんので、三月と四月の月例  
法座、聞信会、御命日法要の勤  
行を新しい譜でお勤め致しま  
す。  
御一緒に練習致しましょう。

・灌仏会(はなまつり)  
四月九日(日) 午前九時

・祠堂法事  
四月二二日(土)、二三日(日)  
午前九時半

◎定例法座(一月、八月を除く毎月)  
月例法座  
毎月第一日曜日  
午前九時半より約二時間

◆家族礼拝  
毎月第二日曜日  
午前九時より約一時間

◆親鸞聖人御命日法要  
毎月十六日 午前九時半～十時半

◆門徒会御法義歓談会  
毎月十六日 御命日法要に引続き

◆聞信会  
毎月第二土曜日 午後二時より

◆富の原真楽寺月例法座  
毎月第三日曜日 午後二時より

富の原 春季彼岸会  
三月十九日(日) 午後二時より

大村市木場一丁目八五番地二一  
真楽寺 電話五二一五〇一八  
https://www.shingyouji.com/